

「五千人への供食奇跡」

2015年07月10日

ルカによる福音書9章10節～17節。使徒たちは帰って来て、自分たちの行ったことをみなイエスに告げた。イエスは彼らを連れ、自分たちだけでベトサイダという町に退かれた。群衆はそのことを知ってイエスの後を追った。イエスはこの人々を迎え、神の国について語り、治療の必要な人々をいやしておられた。日が傾きかけたので、十二人はそばに来てイエスに言った。「群衆を解散させてください。そうすれば、周りの村や里へ行って宿をとり、食べ物を見つけるでしょう。わたしたちはこんな人里離れた所にいるのです。」しかし、イエスは言われた。「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい。」彼らは言った。「わたしたちにはパン五つと魚二匹しかありません、このすべての人々のために、わたしたちが食べ物を買に行かないかぎり。」というのは、男が五千人ほどいたからである。イエスは弟子たちに、「人々を五十人ぐらいつづ組にして座らせなさい」と言われた。弟子たちは、そのようにして皆を座らせた。すると、イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで、それらのために賛美の祈りを唱え、裂いて弟子たちに渡しては群衆に配らせた。すべての人が食べて満腹した。そして、残ったパンの屑を集めると、十二籠もあった。

主イエスは12人の弟子たちを2人1組にして「神の国」の宣教に遣わされた。いやしの権能を授かった弟子たちは民衆に喜ばれ、大きな成果を上げた。疲れて帰って来た彼らは、主イエスに伝道の成果を興奮して報告した。一行は休息を取ろうとベトサイダに退いた。ところが、主イエスを慕う群衆は後を追って来た。群がった群衆に、神の国について語り、いやしを与えた。夕方になり、弟子たちは「群衆を解散させてください。そうすれば、周りの村や里へ行って宿をとり、食べ物を見つけるでしょう」と、あたかも民衆を慮っているかのように言った。内心は休息を取りたい一心であった。ところが、主イエスは「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい」と、自分たちの疲労には無頓着のように言われた。弟子たちは「わたしたちにはパン五つと魚二匹しかありません」と困惑し、不満をもって答えた。主イエスは「人々を五十人ぐらいつづ組にして座らせなさい」と言われるので、民衆をそのように座らせた。主イエスは5つのパンと2匹の魚を取り、天を仰いで、賛美と祈りを唱え、裂いて弟子たちに渡し、群衆に配らせた。すると、全ての人々が満腹し、しかも、残ったパン屑を集めると、12籠もあった。

この供食の奇跡は4つの福音書で5回も記されている。印象深い出来事であったからである。福音書の記者たちは、神が生きて働く「神の国」は皆が分かち合って、お腹一杯食べて、喜びを共有する場であると伝えたのであろう。この「神の国」の姿から、今日の現実を見ると、いかに破れているかが分かる。

私の47年の教会生活の中で、生活保護を受けていた会員が6人おられた。その人々は内心恥じ、本当に慎ましい生活をしていた。鈴木大介氏の『最貧困女子』を読んで、衝撃を受けた。家族、地域、制度から断ち切られた単身女性の貧困は言葉を失う。その子どもたちは悲惨である。更に、精神、発達、知的障がい貧困を増幅している。貧困は人間の尊厳を削ぎ落していく。彼女たちの自己責任ではない。経済の仕組みの不備と荒れた人間関係が生み出した人間的な貧困である。社会的弱者にどのように対応しているかによって、文化度が量られると言われる。憲法25条は「すべての国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」と謳っている。主イエスの五千人への供食は「共に生きる神の国」のリアリティを伝えている。